

新年も迎えて

2021

これから葬儀のカタチ

アフターコロナの葬儀事情



宮崎県葬祭事業協同組合 理事長
(株)ふじもと美誠堂 代表取締役 藤元 一生氏

2020年、世界は誰もが予期しない世界を経験しました。今尚、猛威を振るう「新型コロナウイルス」。コロナにより、人間の生活も大きく変わり、「新しい生活様式」が始まっております。

それは「最後の別れ」にも影響を与え、お葬儀のスタイルさえも変えつつあります。大切な人を失った遺族へのケアは勿論、コロナ禍での新しい葬儀形態も提案していかなければならない現在。

2021年を迎え、これからの『葬儀のカタチ』アフターコロナの葬儀事情を「宮崎県葬祭事業協同組合理事長」を務めている株式会社ふじもと美誠堂代表取締役 藤元一生氏にお話を聞きました。

Q1
まず2020年を振り返り、
新型コロナウイルス禍での葬儀をどの
ような「カタチ」で対応しましたか？

A 全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、葬祭ホールも拡大防止に最大限の努力をしました。

具体的には、従業員並びに会葬者の検温、マスクの着用、手指の消毒液の設置、換気や清掃、椅子の間隔を広く取るソーシャルディスタンスの徹底などです。

また食事もおードブル形式からお持ち帰りできる個食に変えました。さらに一番混雑するお通夜も、親族通夜と一般通夜の時間をずらすなどして、極力三密を避けるよう配慮しました。

Q2 日常が、「新形態」を急加速で進める中、これからの葬

儀はどのような「カタチ」で対応していくと思いますか？

A 近年、参列者の数が減少傾向にありましたが、コロナの影響でさらにその傾向は進むと思われれます。従って葬儀サービスも会葬者向けから故人、遺族向けへと変化する必要があります。例えば故人のお身体のお手入れや湯灌、お着せ替え、お化粧などご遺体保全にかかわるサービスです。また豪華な祭壇より故人のお棺の回りをお好きだったお花で囲むなど、より故人に近いスペースでの新しいサービスが求められてくるでしょう。

Q3 「グリーフケア」の資格をお持ちの藤元氏。求められる「遺族へのケア」について教えて下さい。

*Grief(グリーフ:悲痛など) care(ケア:世話)

A
葬儀は確実に「物」から「心」へのサービスに変わります。

その根底となるのがグリーンフケアです。(グリーンフケ悲嘆)グリーンフケアとは悲しみを乗り越えようと、心の努力をするご遺族を支援することをいいます。

葬儀にはグリーフケアの働きがあるとされています。葬儀を通して遺族は一步一步悲しみから立ち直っていきます。葬儀を行う意味は、①死の現実を受け入れることができます。受け入れることができないと悲しみが長引きます。②故人がこの世に生きた証を確認できます。③喪中の人に対して参列者が援助の意思を伝える場となります。④遺族にとっては社会的援助を受ける最後の機会となります。⑤葬送儀礼（作法やしきたりなど）を伝承する



意義があります。

コロナや自然災害などで葬儀を執り行うことができなかったご遺族の悲しみは、あとあとまで尾を引くかもしれません。

Q4 宮崎県葬祭事業協同組合
の今後の取り組みをお聞か
せ下さい。

A 私たちは経済産業大臣認可の全日本葬祭業協同組合連合会に加盟しており、宮崎県知事認可の業界唯一の団体です。現在宮崎県下16社36ホールで構成しており、こうした県内ネットワークを生かし、北は高千穂、南は串間まで全県下で迅速な対応が取れる体制が整っております。このたびのコロナ禍においても、県内各地の様々な対策を情報共有し各社の葬儀に活かすことが出来ました。これからも研修会などを開いて加盟業者の葬儀サービスのレベルアップをはかってまいります。

また当組合は宮崎県、宮崎市と災害時における協定も結び、自然災害などに際しても県民の皆様が戸惑うことがないよう万全を期してまいります。

さらに全日本葬祭業協同組合連合会とも連携をはかり、宮崎県民の皆様が安心してご利用いただけるよう全国ネットワークを生かしていきたいと思います。

最後に、2021年、藤元氏の
新年の抱負をお願いします。

A ふじもと美誠堂という会社を経営していますが、今年で創業92年を迎えます。弊社は今までに次世代へのバトンタッチの段階に入っています。四代目となる長男の専務が立派な後継者になるよう、社内における自分自身の断捨離に入っています(笑)。

対外的には忙しくなります。業界団体や地元経済団体の役職をたくさん承っておりますので、業界や地元経済に対して微力を捧げて行こうと思っています。

また個人的には還暦を迎えますのでまず健康に注意を払います。現在週のうちジョギング3回、筋トレ1回をやっていますが、これは継続します。

またコロナが落ち着いたら夫婦で国内はもとより、海外にも足を延ばしてみたいですね。

またコロナが落ち着いたら夫婦で国内はもとより、海外にも足を延ばしてみたいですね。

